

『失われた完壁』^{アリス}

作 伊藤月渚

登場人物

- ♥ ハート
 - ♠ スペード
 - ♣ クラブ
 - ♦ ダイヤ
 - 理事長
 - 有栖川光アリス
 - ナレーション
 - ハル●の友達
 - ♠ 母
- 生徒会長・ハート寮寮長
 - 科学部・スペード寮寮長
 - バスケット部・クラブ寮寮長
 - 報道部部长・ダイヤ寮寮長
 - スート学園理事長
 - 転校生

さ
有栖川光は完璧な人物だった。容姿端麗、文武両道。まるで人間ではないような人物だった。通常であれば妬まれるはずだが、彼女はその通りではなかった。人当たりも良く、アリスという愛称で呼ばれ、学園のみんなに愛されていた。しかし、ある日突然、アリスは死んだ。アリスは階段の踊り場の床に赤く広がったカーペットの上で永遠の眠りについていた…

SE (やわめき)

理 ……ということなんだ。突然の事すぎて、理解が追いつかないだろうが……どうか、受け止めてくれないか。

SE 消える

理 今日の日曜日。授業はない。部活動がある生徒もいるだろうが、ゆっくり休んでくれ。…あ、それと。少し話があるから、寮長はこの後会議室に集まってくれないかな。じゃあ、解散していいよ。お疲れさま。

♥ 理事長退場
♠ 登場

♥ ♠ ♥ ♣
理事長の話って何だろう。
さあ……そういえば、ダイヤが来てないね。
ダイヤは報道部の仕事終わってから来るって
全く……

理事長登場

理 待たせたね。集まってくれてありがとう。…ダイヤは報道部かな？

理 ♥
はい……後で注意しておきます。
程々にね。じゃあ君たちを集めた理由なんだけど……実はね、私はアリスが自殺したのではなくて誰かに殺されたのではないかと考えているんだ。

理 ♣ ♥
！？
そ、それはどういうことでしょうか？

理 ♥
まあ、推測だけどね。そこで、君たちに調査を頼みたくてね。お願いできるかな。

理 ♠ ♥
私たちには荷が重いのでは？
そ、そうですよ……

理 ♥
うーん、君たちはアリスと仲が良かったようだったから。それに、調査がどんな結果になっても、私は受け止めるつもりだよ。わからなかったら「わからない」で大丈夫だから。

理 ♥
……わかりました。やれるだけやってみます。

理 ♥
ありがとうございます。じゃあお願いしますよ。ああ、それと。さすがに現場を直接調べる事はだめだけど、警察から情報を得られるように手配はしておくよ。

理 ♥
ありがとうございます。

理 ♥
こちらの都合上、調査は一日の終了のチャイムまで。だから、大体六時頃だね。私事で申し訳ないけど、よろしく。私は理事長室で待っているから、終わったたら報告してね。じゃあ。

理事長退場

：何で急に調査なんか頼んだんだろう。
うん：

何か理由があるんだろう、仕方がない。とりあえず、今の私たちのもってる情報はあまりにも少ない。情報収集をしてから話し合い、を繰り返すのはどうだろうか。

なるほど、さすがハート。ついでにダイヤも探せるし。

いいと思う。あまり人とは話したくないけど……
では、十分後ぐらいにまたここに集まろう。

はい。

退場

：アリスと仲がいい？理事長にはそう見えているのか。そんなのまっぴらごめんだね。

母 さあ、今日もお勉強しましょうか。

母 ねえ、私って何でこんなに勉強するの？みんなしてないのに……

母 一番になる為よ。お母さんはね、あなたに期待しているの。お

母 さんとお父さんの子供なのだからね。

うん……。でも、私も外で遊びたいな。

なんてことを言うの！外は危ないのよ。あなたの悪影響にな

る物ばかり……ああ恐ろしい。だからだめよ。わかった？

……はい。

私は小さい頃から両親に何でも一番になることを求められてきた。おかげで勉強はできるようになったけれど……全く外に出て

なかつたから、運動はあまり得意ではなかつた。勉強に関して

は、この学園に入ってから首位を保っていた。……しかし、アリスが転入してきてからそれが狂った。

ねえアリス、今回の数学のテストどうだった？私、一番最後の問

題が解けなくて九十六点だったんだけど。

一番最初の足し算を間違えて、九十八点だった。

：へえ、すごいじゃないアリス。
ありがとう。ハートもすごいよ。

私以外の一番なんていららないんだ。だから私は陰でアリスをいじめた。もちろん、私が直接手を下さず、生徒会役員を使って。教科書に悪口を書くとか、いろいろとね。それで転学すればいい、そう考えて。でも……

失礼します、

えっ、……何だ、アリスか、

プリント届けに来たよ。

勝手に部屋入ってこないでよ、ノックして。

あっ、ごめん。

……この単語テスト。中身見てないよね？

いや、さっき落としちゃったときにちよつと見えちゃって、

は！？ありえない……

ごめん、わざとじゃないんだけど。

ほんと、ありえない。

で、でもハートすごいね、ほぼ満点で、

何、「私は満点だ」って言う自慢？

いや、違うよ。

そうやって人を下に見ているんでしょ？そういう態度が嫌いな

の！

……、アリスを突き飛ばす

っ！？

あっ、アリス。ごめ、

いや、大丈夫。

お、おでこ血が出てる。これ使って、

ありがとう、

あのとき、動揺していた私は、思わずハンカチを貸してしまった。

アリスはハンカチで傷を押さえて、足取りもおぼつかなくなつた

……それから私はアリスを見ていない。もしあの傷が原因で階段

から落ちたのであれば、私はどうしたらいいのだ。

◆登場

あれ、ハート早いね。
ああ、あまり情報が集まらなくて。
いろいろ聞いてきたけど、核心に迫るものはなかったなあ。
そうだね。ところでダイヤは見つかった？

◆登場

呼んだ？
ダイヤ連れてきたよ
ありがとう、スピード。「呼んだ？」じゃないでしょう。全く、
理事長が呼んでいるのに、部活を優先するとはどういうことなの？
まあいいじゃん？ねースピード。
いや、僕を巻き込まないでよ：
ほら、とりあえず時間は有限なんだから話し合いしよう。
ああ、そうだね。では、クラブから。何かある？
そうだなー。私は警察の方に話を聞いてきたんだけどね、アリスの死体の近くに、ハートのスートの刺繍がされたハンカチが落ちてたんだって。
へえー面白い情報だね、ハート。
何が言いたいのか？
だって、君の寮の人間が犯人かもしれないということだろう？
面白いじゃないか。
全く。アリスも私の寮の人間だ。アリスのものかもしれないだろう？
ふふっ、さあどうだろうね？
ま、まあまあ落ち着いて二人とも：あ、そうだ。あと一つ情報をもらったんだって！アリスの額に傷があったって。
え？階段から落とされたときについたんじゃないの？
うーん、それとはまた違うんだって。おそらく、死亡推定時刻が

二十二時半頃なんだけど、それより前についた傷らしいよ。
なるほど、どこかにぶつけたのかな。
事件とは関係なさそう？

それはどうか？僕さあ、ハートがアリスをいじめてるっていう噂をきいたんだよね。

：ハート、どうなのさ。

確かに、アリスに嫉妬していたのは事実だよ。でも、私がいじめなんて陰湿なことをすると思うかい？

アリスのそばに落ちていたハンカチがもしハートのものだとしたら？階段のそばで口論していて、アリスに対してむかついたハートがそのままドーン、

あくまで憶測だろう？確信を持ってから言ってほしいな。

まだ推理の段階でしょ？考えを共有するのは当たり前じゃない？そんなに強く注意しなくても：あ、まさか事実だったりして！

おいダイヤ、いい加減にしておけ。それにハートも。ダイヤがこういうやつだということはよくわかってるだろう。

スピードは何か共有したい情報ある？

あ、いや、僕は特にないかな。

そっか、ありがとう。とりあえず一回目の話し合いはこれくらいにして：

少し待ってくれないかな。

ん？どうした、ハート。

一番大事なアリバイを聞くのを忘れていたよ。死亡推定時刻の二十二時半頃、みんなはどこで何をしていたの？

私はずっと自室にいたよ。証明はできないけど。

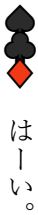
ぼ、僕も、クラブと同じかな。

僕はアリスとの集合場所に向かっていたよ。取材の約束をしていてね。

私はどこかで大きな音が聞こえたから、散歩がてらに見に行っていたよ。結局分からなかったけど。

大きな音、確かにしてたね私そのまま寝ちゃったけど。

：なるほど、ありがとう。では、二回目の情報収集に移ろうか。



はい。

◆ 皆退場
◆ 登場

あれ、まだ誰もいないじゃん。…まさか、アリス殺人事件、まあ、殺人かわかんないけどね、この事件がこんなにおもしろくなるなんて思ってもみなかったなあ。売れる情報は少なくなっちゃったけど、これはこれでいっつか。

僕は裏で情報屋をしている。もちろん、お金のやりとりはしてないよ、情報と情報のやりとりさ。

やあ、例の情報は出たかい?…え?なぜアリスの情報を集めるのかって?それはもちろん、学校の人気者であるアリスの情報をつかめば、もっといろいろ有益な情報が出てくるはずだからさ。別に僕自身、アリスに対して何の感情もない。まあ、あそこまで完璧をつらぬいてると、少し不気味だとは思うけど。で、どうなんだい?…そうか、やはりアリスに関する情報はないか。困ったな、これで四件目だ。アリスは転校生だし、彼女の情報を持っている人間が少ないのは当たり前だけど。前、アリス本人にも取材に行ったけど、断られちゃうし…。

アリス登場

あ、アリス、ちようどいいところに。ねえ、前君にお願いした取材、やっぱり引き受けてくれないかな?もちろん、君の時間が空いている時でいいからさ。…え?なんでって?それは人気者の君のことを、もつとよく知りたいからさ!…え、いいの?ありがたい!じゃあまた今度、空いてる日教えて!

そうして、やっと取材の約束ができたと思っただけ、アリスは死んだ。あーそうそう、実は僕、アリスの死体を見てるんだよね。わざとハートたちには言っていないけど。その方がおもしろそうだし!きれいだっとな、っていうのは不謹慎かな。



◆ 登場

早かったね、ダイヤ。いや?さっき着いたばかりだよ。

さて、二回目の話し合いを始めようか。じゃあ、スペードから。あ、うん、えつとね。まあ、今回の事件とは何も関係がないかもしれないんだけど…アリスは水が嫌いなんだって。…水?

うん…この情報を教えてくれた子がね、大分前の雨の日に学校から寮へ帰ろうとして、昇降口に言ったんだって。そのとき、そこでアリスを見て、傘を持っていないようだったから、アリスに傘を貸して、自分はいつも持ってる折りたたみ傘で帰ろうとしたんだって。でも、アリスはそれを断って、「もうすぐ雨が止むから、それまで待ってる」って言って、その子はまあそれならいいか、って思ってた…で、「アリスに濡れるのが嫌なの?」って聞いたら、「うーん、水が嫌いなんだよね」って…

確かに、水泳の授業の時はほとんど、というか全て休んでいたな。そうなのか。スペードありがとう。じゃあ次は私からでもいいかな?

「ああ、かまわないよ。では、私が入った情報としては、理事長が睡眠薬を使ってるって話だよ。」

理事長が? うん。ほら、アリスって理事長室によく出入りしてるからさ、理事長と何らかの関係があるんじゃないかって思ってたね。

そうなのか、なるほどね。 うん、まあ関係ないかもしれないな、これについては。私が聞いた話では、スペードと理事長の仲がいいのでは、という感じだったよ。

スペードと? ああ、それについては僕も聞いたことがあるよ。 え、有名なのか?

んー、知る人ぞ知る、って感じかな。 この前、スペードの部屋を訪ねた時、机の上に睡眠薬が置かれて

いたよね？
それって、もしかして？
な、仲がいいというか：最近、寝付きが悪くて、っていう相談を
理事長もそうらしくって、睡眠薬を使ってるって言うから、僕も
使ってみたいな、って言ったら、少し分けてもらえて：

ふーん？何で理事長に相談したの？
うーん：一番優しそうだったからかな。
確かに、優しそうに見えるしな。

なーんだ、つまんなーい。
理事長、か：少し調べてみる必要があるそうだね。私、次は理事
長について重点的に調べてみるよ。

ありがとう。じゃあほかに情報がなければ三回目の情報収集に
移ろうか。
：ないようだね。じゃあ、また十分後に。

皆退場
戻ってくる

危ない、メモ帳忘れるところだった：メモしないと、忘れっぽい
からなあ、私。：はあ、少し疲れたな。休憩しよう。

アリス：私は彼女があまり好きではなかった。なんだか、人間味
を感じなくて。あと、嫌な予感がして。その予感の中した。

あ、ハル！今日一緒に帰ろうよ。
あ、ごめん。今日はアリスと帰るから。

え、いつも一緒に帰ってたじゃん。
あ、アリス！今日一緒に帰ろう。

うん、いいよ。クラブも一緒に帰る？
いや、いい。
そっか。

アリス、今回のテストどうだった？僕全然だめできー。
ねえアリス、

アリス、ハル退場

：ひどい。ハルも、アリスも信じられない。ずっと友達だったの

に、ハルは私を裏切った。いや、アリスが私から友達を奪ったん
だ。

私はアリスが許せなかった。私と同じ目に遭わせたかった。友達
が取られる悲しみを味わわせたかった。だから私はアリスの悪
口を言ってた。おかげで私は嫌われた。それでもいい。

アリスに復讐ができるのなら。でも、一向にそんな気配を感じな
い。むしろアリスの友達は増えていく一方なのではないか。：そ
う思った。

げ、アリス。
あ、クラブ。

待って、顔色悪いよ。
大丈夫。

最近元気ないよね、
大丈夫だって。

無理したらだめだよ、
大丈夫だから！

でも、
しつこいな！何、私のこと馬鹿にしてるの？馬鹿にしてるん
でしょ？いいよね、アリスは。何もせずとも勝手に友達が増えてっ
てさ。友達が取られることがどんなにつらいことか：友達が多
いアリスには、わかりっこない！

アリスには、わかりっこない！

：何とか言っよ。
うん、ごめん。でももう大丈夫。

どういうこと？
ごめん、用事があるから。

その後、アリスが死んだ。「大丈夫」：どういう意味だったんだ
ろう。まるで自分が死ぬことを知っているかのよう？

あれ、クラブじゃん。何考え事してんの？

登場

あ、ああダイヤか。少し情報の整理をしていたところだよ。何かわかったかい？

んー、微妙だな。

では、話し合いをはじめようか。何か情報がある人はいる？

じゃあ、僕からいいかな。死亡推定時刻の二十二時半頃、あまり寝付けずにランニングをしていた生徒がいてね。その生徒がアリスが死んでいた踊り場付近の中庭を通った際、踊り場方面から大きな音がしたんだって。怖がりだから、すぐ帰っちゃったらしいんだけど。

大きな音。多分私やクラブが聞いたものと同じ物だろうね。どんな感じの音、とか言ってなかった？

聞いたんだけどねー。「怖くて覚えてない」って。そうか、なら仕方ないね。私からも情報を伝えるね。先程も言ったとおり、理事長について調べてみたよ。理事長と関係がありそうな先生に手当たり次第聞いてみたんだ。インタビューと称してね。

ああ、なるほど。先生に聞いたんだね。

うん。そしたらみんな口を揃えて「何か隠していそうだ」と言っていたよ。

確かに、理事長はミステリアスでつかみどころがない感じだけど…？

「何か隠している」か…ますます怪しくなってきたね。ど、どうなんだろう、僕たちの場合、偏見っていうのもあると思うんだけど…

うん、スピードの言うとおり、私たちの気にしすぎかもしれない。一応もう少し調べてみるよ。

お願い。…後は何も情報はなさそうかな？

…では、もう時間も迫ってきているし、これが最後の情報収集となりそう。最善を尽くしていこう。

あ、ごめんハート。

ん、どうしたの、スピード。

少しお腹が痛くて…休んでからでもいいかな。もちろんだよ、無理しないでね。

はあ…まさかこんな大事になるなんて思ってもみなかった。

実は僕は理事長の息子なんだ。つまり理事長は僕のお父さん。僕たちは三人家族で仲良く暮らしていたんだ。

あつ、お父さんしいたけ自分で食べなよ。

え？入れてないよ？

母 お父さん、嘘は良くないわよ。

皆 ははははっ！

皆 ははははっ！

でも、数年前お母さんは病気で亡くなった。突然のことだったから、僕もお父さんもかなりのショックを受けた。

おはよう、お父さん。

理、通り過ぎる

数日後、お父さんは部屋にこもるようになった。まだお母さんの死から立ち直れてないのかと思った。さらに数日後、さすがに心配になった僕は、あるとき部屋をのぞいてみたんだ。そしたら、お父さんは何かを作っていた。僕に気づいたお父さんは「何か用かな」って聞いてきたんだ。僕が心配したって言ったら、謝ってくれたんだ。その日を境に、お父さんは少しずつ外に出るようになった。

スピード、桜を見に行かないかい？休憩も大事だよ。

行きたい！

桜は英語で？

チェリーブロッサム！簡単だよ。

皆 ははははっ！

僕は嬉しかった。お母さんはいないけど、もとのような仲良し家族として暮らせるんじゃないかって。でもそんな時、アリスはやってきた。

理 この子は光。私の兄の子で、スペードと同級生だよ。仲良くして
ね。光です。よろしく、スペードくん。
ア あ、うん、よろしく。

理 アリスはこの頃から、何をしても完璧だった。
アリス、すごいじゃないか。数学で九十八点とはたいした物だ
よ。

ア そんなことないよ、足し算間違えちゃったし。

ア ね、ねえお父さん、僕も頑張ったんだけど、
：うん、まずまずだね。ところでアリス、体調とか大丈夫かい？
うん、大丈夫。

ア そうか。そうだ、この味噌汁を作ったのはアリスかい？
そうだけども。おいしくなかった？

ア いや、お母さんの作ってた味噌汁に似てるな、と思つて。
そうかな、つて、お父さんしいたけ入れられないですよ。

ア え、私じゃないよ。
嘘つかないの。

ア アリスも入れないですよ。しいたけ入れていいのはお母さんだけ
なの！味噌汁だつて、アリスのよりお母さんの方が何倍もおい
しいんだよ！……ごちそうさま。

理、ア退場

何であんなにお母さんに似ているのか、何で完璧なのか？気味
が悪いほど、怖かった。

◆◆◆登場

スペード、体調はもう大丈夫？
うん、ありがとう。

ア よかった。では最後の話し合いだ。じゃあダイヤから。
はーい。僕はねえ、面白い噂を聞いたよ。クラブがアリスの悪口
を言っていたつて。

ア クラブが？

：そうだ。

認めるんだね、ハートと違って。

先程ハートも言っていただろう？アリスは完璧だ。それ故に嫉
妬している人も多少はいるだろう。僕もその一人つて訊いた。
ふーん。

とかダイヤや、君についての噂でさ、アリスに無理矢理取材を
しているって聞いたんだけど？

人聞きが悪いなあ。取材をしていたのは確かだけど、許可はきち
んと取っていたよ。

犯人の候補としては、スペードを除いた寮長、理事長、つていつ
たところかな。動機がある。

ちよつと待つて、何でスペードが除外されるの？理事長と手を
組んでつて可能性があるでしょ？

そんなことしないよ。

あくまで可能性だからね。じゃあ五人だ。

多分、わざわざ私たちに調査を頼んできたのも、私たちの中に犯
人がいると思つたからだろう。

そうだろうね。ああ、そうだ、私も新しい情報があるよ。先程、
警察の方から、アリスの体内に睡眠薬の成分が見つかったと報
告があつたよ。

睡眠薬、ね。
いよいよ、理事長とスペードの共犯が怪しいかな？
お父さんがそんなことするわけ！……あつ、
お父さん？

：そうだよ、理事長は僕のお父さん。
さつきはそんなこと言つてなかつたよね。何で隠してたのさ。

別に言うまでもないかなつて。
スペード、まだ君何か隠してるよね？

何も隠してないよ、
話しておいた方がいいと思うんだけど。このままだと理事長が
犯人にされちゃうよ？

：分かつたよ。アリスは僕のお父さんの兄、だから僕の伯父にあ
たる人の子供として紹介されたんだ。その時、僕はお母さんをも
う亡くしていたんだけど、アリスはそのお母さんにそっくりだ
つたんだ。



ん？アリスはスペードのお父さんの家系にあたるんだよね？
 さんでお母さんに似ているんだい？

さあ、僕も分らないんだ。聞いたんだけど、はぐらかされてしま
 まって…。それで、僕はアリスを避けていたんだ。少し気味が悪
 くて。アリスが来てから、お父さんはずっとアリスにつきつきり
 なんだ。そりゃ、自分の子供じゃないんだから、大事にしないと
 いけないんだろうけど…。でもやっぱり、僕のことにも気にしてほ
 しかったんだ。完璧とまではいかないけど、僕だって頑張ってる
 んだから。だから眠れないなんて嘘の相談をした。



君もアリスに嫉妬していたって事だね。



うん、そうだね。僕はだんだん、アリスを憎むようになってき
 ちゃってき。ついにはいなくなればいいなんて思うようになってき
 ちゃってき…。今思い返せば最低だよ。あるとき、僕は思った。ア
 リスが永遠の眠りについてしまえば。殺そうなんて思ってた。な
 かった。ただ、ただ、長い眠りについてほしかっただけ。だからと
 りあえず、睡眠薬が一錠で効くのか試したかった。睡眠薬を二回
 分飲めば、効果も二倍になるかな、って思うくらいには僕は参
 ってたらしい。さすがに錠剤だと怪しまれるだろうから、すりつ
 ぶして粉にして水に溶かして。一応効果はあったよ、僕が飲んだ
 ときはね。僕がアリスにそれを飲ませたのは事件当日の。
 なるほど、だからプリントを届けに来たとき、少しふらついてい
 たのか。



多分そうだね。少しずつ効果が出てきていたみたいだ。そこで少
 し心配になった僕は、アリスを追いかけたんだ。



あれ？君、ずっと自室にいたって言ってなかった？



それは嘘なんだ。…そして、僕はアリスを見つけた。あの階段で。
 僕がアリスに声を掛けたその瞬間、



…亡くなってしまった、というわけだね？



…そう。だから犯人は僕だ。だから、だからお父さんは関係な
 い！僕が犯人だと報告してくれ…！



ちよっと待って。



え？



どうしたの、ダイヤ。



僕さ、何で理事長が調査を依頼したのか、考えてたんだよ。
 犯人を知るためではないの？



知ったところで何になる？そんなの、警察が調べた方が早か
 るに。



そうだね。確かに。



では、なぜ？



僕が思うに、復讐のためじゃないかな。



復讐？



そうだね、例えを出した方がわかりやすいかな。じゃあ、クラブ。
 君、何？



君の大切な人がある人によって殺されてしまったらどうする？
 まあ、どうにかして復讐したいよ。



だろう？理事長も一緒さ。さっきのスペードの話からして、理事
 長はアリスのことを大切に思っている。そのアリスが殺された
 かもしれないんだ。殺してやりたいって思うのもおかしくない
 よね？



そういうことは、スペードが犯人だと報告すると、スペードが殺さ
 れるかもしれない、ということかな？



そういうこと！だから、報告しない方がいいんじゃない？



まさか、情報にしようとか思っていないよね？



しないよ。さすがの僕もそんな残酷じゃないもん。



言わない方が得策ではあるね。



どうする、スペード。君次第だよ。



で、でも…



理事長の手を血に染めたくなければ、ね。



…わかった、わかったよ！報告しない。



では、報告しないという方向性でよさそうかな？では、



SE (チャイム)



行こうか、理事長のもとへ。



皆退場



失礼します。



どうぞ。

登場

ああ、君たちか。調査は終わったかい？…あれ、ダイヤが見当たらないね。

えっ、ダイヤは？

報道部だって。さっき電話が掛かってきたらしくて。

またか？

部長がいないと困るから、って言われたらしいよ。

なら仕方がないね。ところで調査の結果はどうだったかな？

…すみません。四人で最善を尽くしたのですが、犯人の特定にまでは至りませんでした。

そうか。いいんだ、ありがとう。調査に協力してくれただけで十分さ。では、そうだな。一日中調査してたんだ、疲れただろう。

今日はもう休んでくれ。

はい、そうします。ありがとうございます。



退出しようとする

理事長！いや、お父さん。

どうしたのかな、スピード。

…アリスは、僕が殺したも同然です。

！

ス、スピード？

殺したも同然、とは？

僕がアリスに睡眠薬を飲ませたから、アリスは階段でふらついて…。

…。

言い訳みたいだけど、僕だってお父さんにかまってもらいたかったよ。なんで実の息子の僕じゃなくてアリスばかり…寂しいよ。わかってるよ、僕がしたことはいけないことだって。人殺しだって。どんな罰でも受けるつもりだよ。

そうか、スピードが…スピード。

はい。

ごめんね。



…へっ？

スピードが胸中を話してくれたんだ、私も事実を話さないかね。

事実、ですか？

うん。君たち、アリスについておかしいなと思った点はないかな？

おかしい、ですか。完璧すぎるとか。

うん、そんな感じ。

お母さんに似過ぎていること。

水が嫌いなこと、かな。

ほう、なるほど。実はね、アリスは私の妻、だからスピードのお母さんの亡骸をもとに作った、感情を持ったロボットのようなものだね。

えっ！？

ど、どういうことですか？

私の妻が亡くなっていることは、もうスピードから聞いているだろう。

はい、聞いています。

私はそれに大きなショックを受けた。そしてあるとき、ふと思いついたんだ。いなくなってしまう物はもう戻らない。なら、新しく作ればいい。その結果がアリスだ。

え、伯父さんの子供じゃなくて？

ああ、それは嘘だね、ごめん。だから私はそこからアリスを作り始めた。寝食をも忘れ、それだけに集中した。そういえば、スピードが心配して見に来てくれたときもあつたね。

もしかしたら体調悪いんじゃないのかな、って…。

嬉しかったよ。そして、やっと完成した。見た目は妻にそっくりで、中身は意志を持ったAIのようなものだね。アリスは自分が機械である、作られた物だと感じていたんだらうね。だから水が苦手なんだ。完璧すぎるのもAIだからだろう。

なるほど。

だから私も同罪なんだ。

ねえお父さん。一緒にやり直そう。

え？

お母さんが亡くなって、僕たちが狂ったあの日から。

いいの？私にはもう、スピードの父親なんて。



そんなこと言わないでよ！僕の肉親はお父さんしかいないんだ。もう一回やり直そうよ。

しかし、スピードがそれでいいって言ってるんです。いいんじゃないですか？

過去より未来です。これからが大事なんですよ。

お父さん…。

…そうだね、やり直そう。ちゃんとした親子として。

うん！

一件落着、かな。

ハートも、クラブも、ごめんね。

え？何で謝るの？

だって、ずっと嘘ついてたし、僕のことを匿ってくれてたのに。

台無しにしちゃったし。

そんなの気にしないでよ。

終わりよければすべてよし、っていうからね。

そうだよ。

…うん、ありがとう。

さてと、今日はもう休もうか。明日は学校だよ。

はい。

皆退場

♥♣登場

あ、クラブ、久しぶりだね。

ハートか、十年ぶりだね。

元氣そうで何よりだよ。

会社を立ち上げたんだって？

ああ、そうなんだよ。学園での経験を生かして、新事業を立ち上げている途中なんだ。

ほお、すごいな。

クラブは？

私は、心理カウンセラーをやってるよ。人の相談に乗るのは昔から得意だったからね。

クラブらしいね、頑張ってる。

ありがとう。ハートもね。

◆登場

あー、遅れた遅れた

あ、ダイヤ。今着いたの？

そうだよ。

もう集合時間過ぎてるぞ…。

しかたないじゃん？ゴシップ記事を集めるには休んでちゃいけないのさ。

なるほど？

このメンツが集まると、アリスのことを思い出すよね。

ああ、そういうこともあったね。

そういえば、スピードがいないね。

理事長もいないようだよ。

同窓会なのに、来ないのかな。

忙しいんじゃない？いろいろあったし。

そうだね。

あ、

どうしたの、クラブ。

あれ、理事長とスピードじゃない？

え？

確かに、似てる…？

見に行ってみようか？

うん、そうしよう。

おーい！

皆退場

終わり